

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターおおとり

作成者: 守屋 遼

作成日: 2023年 11月 10日

運営推進会議における評価実施日: 2023年 12月 15日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議 における 外部評価	記述
I 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A	全職員が理念の意識化を図る為、社是を目的書に張り出しています。統一したケアを実践する為に、朝・夕の申し送り時に、直接申し送りシートに記入し、日々の取り組みで、自立に向け食事・排泄のケアを特に配慮しています。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	D	コロナ前は近隣の方々と交流をしていました。現在はコロナ禍の為交流は出来ていません。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	A	コロナ禍の為、2ヶ月に1回書面での開催アンケート調査も行う		
4	市町村との連携	市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	コロナ禍の為電話のみの関係。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	ホーム内身体拘束委員会を設置し拘束内容について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	A	マニュアルや研修等があれば安心です。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	A	身体的虐待などは無いが、スピーチロック等の言葉の拘束を排除していく	A	虐待も様々であるため継続した注意が必要と可
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	以前は後見人を利用している入居者様がありました。現在、後見人を就けるか検討されている入居者様がいる居て		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	現在、入居されている方の家族様で問題が出ていません。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	コロナ禍でも入居者様との面会を希望される家族様が多数居られ、感染しない面会方法を取っている	A	充分な対応だと感じます。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A	日々スタッフ達とのコミュニケーションを取り思いを聞き動きやすい環境を作っている		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A	給料に関しては何も出来ないが、職員の働く環境を整え、身体消化も出来て残業も無くなる事を話し合える働きやすい環境になっている	A	充分な対応だと感じます。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A	新職員に対して何でも話せる環境を作り、介護・介助のスキルアップ向上に努めている	A	充分な対応だと感じます。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	D	コロナ禍の為出来ていません。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A	お客様の残存能力を生かしてスタッフと一緒に出来る事があれば、役割をもった日常生活をし、その方らしい過ごし方を出来る様にサービスを提供している		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A	悲観しにはなるが、家族様との面会を実施している		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンターおおとり

作成者: 守屋 遼

作成日: 2023年 11月 10日

運営推進会議における評価実施日: 2023年 12月 15日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
II その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A	ご本人の日常会話等からスタッフが傾聴しホーム演ができることを提案している		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	お客様が出来ない事を見極めご本人の気持ちを重視し、希望や意向ニーズをしっかりと捉え、介護計画を立てている。ご本人の身体的状況の変化が現れた時、計画の見直しをする為カンファレンスを行う	A	充分な対応だと思えます。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A	24時間を通じて日々の様子を記録に残し、気付きシートを活用しスタッフとの情報を共有し実践や介護計画に活かしている	A	充分な対応だと思えます。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A	ご本人のケアはもちろん、ご家族様の相談に耳を傾け、御要望に応じた柔軟な対応を心がけている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	C	コロナ禍の為、近隣の散歩のみになっている		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	かかりつけ医がオンコールは必ず対応している		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	家族の意向もくみカンファレンスに参加し、早期の退院できるように支援している	A	カンファレンスのみならず病院主催の研修や講座の参加も関係づくりには有効です。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A	重度化の方に関しては主治医との連絡をし、家族様の意向も聞き入れ指取り組んでいる	A	充分な対応だと思えます。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A	緊急時対応マニュアルを作成し、見える所への表示をし研修を行っています。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A	消防訓練と共に、消防署員の指導のもと避難訓練を行い、常に対応出来るようにしています。防災委員を設置し自主的に消防訓練を実施している。年二回の防災訓練の実施(火事・地震想定)	A	充分な対応だと思えます。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンターおおとり

作成者: 守屋 遼

作成日: 2023年 11月 10日

運営推進会議における評価実施日: 2023年 12月 15日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A	情報をスタッフ間で共有し、自尊心を傷つけないように、声掛けや対応に気をつけている。個人情報取り扱いにも十分気をつけて行っている	A	充分な対応だと感じます
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A	お客様の生活習慣や、ペースに合わせて希望に沿って支援している		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A	好みに応じた出前やビュッフェ形式にして食事楽しんでいます。体調不良や座下状態に応じて食事形態を変えて提供しています。献立は黒板に書き出し、今日の楽しみを会話等で話しコミュニケーションに役立っている。レクにはオヤツ作りのレクも取り入れ	A	充分な対応だと感じます
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	バランス・カロリーを考えた食事内容にしています。水分量については1日を通してその方に適した量やトロッコ等に提供しています。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	食事の口腔ケアを促し、介助をしています。就寝の際、義歯を外し、消毒等を行っています。毎週水曜日にはデンタルクリニックを兼ねた口腔ケア・スタッフへの指導もしています	A	充分な対応だと感じます
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	できるだけ排泄の自立やトイレで排泄できるように、声かけや定時誘導を実施している。方が一失敗したときも、プライバシーを配慮した対応をしている。	A	充分な対応だと感じます
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合や理髪や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	A	声を掛けをし、体調も考え入浴している。拒否がある場合も、タイミングや声かけの仕方等職員同士で考え気持ちよく入浴できるように対応している。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	日課はあるが、その日の体調に応じて休息の声かけやご利用者様によっては、医師や家族様と相談して眠前薬を服用している。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	お客様の個々の薬物情報や副作用をスタッフ間で共有・把握し、何かあった時はすぐ確認を出来るよう個々の薬物情報をファイリングしている。服薬時は声に出し相手スタッフとの確認をしチェック表にも記入している	A	充分な対応だと感じます
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A	お誕生日には必ず当日にケーキをお祝いをしている。季節のイベントはもちろん色々なレクも入れ取り組んでいる		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C	コロナ禍の為、玄関先や敷地内での日向ぼっこ等をしている		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	B	コロナ禍の為、入居者様の欲しいものを聞き代理で買い物に行っている		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A	お客様の希望があれば自由にかけていただいている。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能がわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	居室には馴染みの物や家具等又は写真などを飾っていただいている。空調管理にも気をつけて暮らしやすい環境を提供している	A	入居者様とごとの環境整備、空間づくりがなされてると感じました。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンターおおとり

作成者: 守屋 遼

作成日: 2023年 11月 10日

運営推進会議における評価実施日: 2023年 12月 15日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
IV 本人の暮らしの状況把握・確認項目 (利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A	入居時に家族様にアセスメントシートを記入して頂き、ホーム入居前の在宅時と変わりない生活を送っていただくようにしている		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A	バランス・カロリーを考えた食事内容にしています。水分量については1日を通してその方に適した量やトシ等にて提供しています。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A	毎日、検温・バイタル測定を実施。職員が体調変化に気づいた場合は、かかりつけ医・上長に報告し早期の対応をしている。温度計を設置し状況に応じて、エアコンや加湿をしている	A	充分な対応だと感じます
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A	お客様の生活習慣や、ペースに合わせるように希望に沿って支援している。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A	入居時に本人様と家族の意向を尋ね、馴染みのある家具や衣類を持参して頂いている	A	充分な対応だと感じます
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A	コロナ感染拡大により、外出・外食や買物を控えている。施設内で皆様に楽しんでもらえるような行事を提供している		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A	毎日、ご利用者毎に好みに応じた制作レクやドリルをしている。できる方には調理や洗濯物干し・掃除機かけ等を手伝って頂いている		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A	ホーム内での話の中にお客様同士が馴染めるような環境、共有場所を作りスタッフ見守りをしています。お客様達が一緒に出来るレクや手伝いをして頂いている	A	生活の一員であると感じてもらえるような工夫ができています
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	B	コロナ禍の為、近隣に住んでおられた入居者様のお友達が窓越しにて面会されている		できていないと感じています
49	総合	本人は、このGHIにいて、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A	日中は、自室に引きこもり孤立しないようにし、リビングでご利用者様毎に制作レクや手伝い等の役割を持ってもらっている	A	一人ではなれないという安心感は大変だと感じます

総評

入居者一人ひとりに寄り添った支援ができていますと感じました。看取り対応もその中で医療との連携を必須となりますが、その点も問題なく安心できる施設だと感じます。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

特になし

参加者サイン欄

西築2地域包括支援センター 宮本 玲子